

# 会 議 録

## 1 会議名

令和5年度第2回上越市食育推進会議

## 2 議事（公開・非公開の別）

- (1) 令和5年度食育市民アンケート結果報告（公開）
- (2) 第4次上越市食育推進計画指標項目及び令和5年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）の取組状況の報告（公開）
- (3) 令和6年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）について（公開）
- (4) 令和6年度食育実践セミナーの実施について（公開）
- (5) その他（公開）

## 3 開催日時

令和6年3月27日（水）午後2時から4時

## 4 開催場所

上越文化会館 4階 大会議室

## 5 傍聴人の数

0名

## 6 出席者氏名（敬称略、傍聴人を除く。）

- ・ 委 員：内山一晃、松井千鶴子、小林綾子、中嶋里子、倉又久美子、秦野美奈子  
鳥越香菜子、信田紘基、土井麻美、松井和代、小林元、空周一
- ・ 事務局：農政課：栗和田課長、伊藤副課長、岩澤係長、中村主事  
健康づくり推進課：大石上席栄養士長、幼児保育課：伊倉副課長  
上越ものづくり振興センター：平原副所長、農村振興課：廣田副課長  
学校教育課：古川副課長、社会教育課：竹内副課長

## 7 発言の内容

### （1）開会

【事務局：伊藤副課長】

- ・ 上越市食育推進会議規則第2条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認し、会議の成立を報告。

### （2）委嘱状交付

【事務局：伊藤副課長】

- ・令和6年3月1日付けの人事異動に伴い、委員が交代となったため紹介する。

秦野美奈子委員（えちご上越農業協同組合 農業対策課）

- ・任期は、前任の残任期間である令和6年3月1日から令和6年7月25日となる。
- ・また、委員名簿のNo.12の鳥越委員におかれましては、人事異動に伴い、役職が変わられたので、あわせてご確認をお願いする。

### （3）会長挨拶

【事務局：伊藤副課長】

- ・開会にあたり、松井会長からご挨拶を頂戴したい。

【松井会長】

- ・私たちの任期は7月までとなっており、任期中最後の会議となる。上越市の食育が益々活性化するよう皆さんの忌憚のないご意見をお願いする。

【事務局：伊藤副課長】

- ・本日の会議録は、後日、市のホームページで公開されるので、あらかじめご承知おきいただきたい。
- ・「次第4 議事」に入る。進行は、上越市食育推進会議規則第2条第1項に「会長が議長となる」とあるため、松井会長に議長を務めていただきたい。

### （4）議事

#### ① 令和5年度食育市民アンケート結果報告

【松井会長】

- ・しばらくの間、議長を務めさせていただく。初めに、「(1) 令和5年度食育市民アンケート結果報告」について事務局から説明願いたい。

【事務局：中村主事】

- ・資料No.1、No.2に基づき説明（説明省略）

【事務局：岩澤係長】

- ・一般のアンケートと高校生向けのアンケートの比較を含めた補足をさせていただく。
- ・一般向けアンケートの7ページ、問7「朝食を週に何日程度食べますか」に関して、「ほとんど食べない」と回答した人の割合は、計画策定時の令和3年度、令和4年度と比較し、小学生、中学生、高校生ともに増加傾向にあり、特に20代・30代の若い世代については、令和3年度から4ポイントも増加している。

- ・朝食の欠食理由については、直接聞いていないので実態は不明であるが、一般的に生活リズムの夜型化や、ダイエットのために朝食を抜くなどといったことが以前から言われており、先日（3/24）、日本農業新聞で食育に関する記事が掲載されていたので紹介する。
- ・令和5年度に農林水産省が実施した「食育に関する意識調査」の結果がこの3月に公表されたことを受けてのことと思われるが、近年の物価高が食育推進にも影響を及ぼしているのではないかと農水省は分析している。
- ・朝食の欠食のほかに物価高が影響しているものと想定される指標項目については、【基本方針1の(2)の3】「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合」、【基本方針3の1】「食育に関心を持っている市民の割合」、【基本方針4の4】「環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合」についても、国の調査結果と同様に数値が低下している。農林水産省は食育への関心が低下しているというよりは価格の方へ意識が向いているのではないかと分析している。
- ・今回のアンケートでは、問21に新たにデジタル技術を活用した食育に関する設問を設けた。利用したことがある人の割合は20.4%と低い状況にあるが、その中でも、利用したことがあるコンテンツについて、料理レシピなどの動画の視聴とSNS等での料理レシピ等の情報の入手や収集という2項目が圧倒的に多かった。
- ・一方、高校生のアンケートでは、問11に今後の食生活に関する心配事について設問を設けた。栄養バランスのとれた食事ができるかという項目が一番多かった。
- ・市では、クックパッドやインスタグラムでレシピを配信しており、こうした中に栄養に関する情報を加え、高校生などの食生活に活かされるよう工夫していきたい。

【松井会長】

- ・今ほど事務局から説明があったが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。

【松井委員】

- ・単純に、朝食の欠食という点について、物価高が影響しているというところは非常に衝撃的であった。そうであるならば、この設問も、高校生はさぞかし苦しかったのではないかと推察した。こういった課題への対策は、今までこの会議には出てこなかったと思うが、今後、こういう方々の生活について、課題解決できるような方法を新たな形で探していかなければいけないのではないかと感じた。

【松井会長】

- ・このアンケート等の結果は、市民の皆さんにどのように公開されるのか。また、福祉関係の部署などと、何か連携する必要もあるかと思ったが、何か考えはあるか。

**【栗和田課長】**

- ・令和元年度から3年度にかけては、食育の関心が高まってきており、欠食に関しても少し良くなっていたが、令和5年度については、令和3年度と比較して数字があまり良くないというのが実態である。
- ・先ほど説明したとおり、農水省で近年の物価高が食育への関心や朝食の欠食等にも繋がっていくような分析をされているので、現在は食育に関する庁内の関係課に福祉部署は入っていないが、まずは福祉部署とも情報を共有させていただきたい。

**【事務局：岩澤係長】**

- ・市民への周知については、市のホームページに掲載したいと考えている。

**【松井会長】**

- ・ホームページへの掲載もそうだが、何か皆さんの意識が高まるような公開方法がとれるとよいと思う。

**② 第4次上越市食育推進計画指標項目及び令和5年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）の取組状況の報告**

**【松井会長】**

- ・次第の「(2) 第4次上越市食育推進計画指標項目及び令和5年度上越市食育推進実施計画の取組状況の報告」について事務局から説明願いたい。

**【事務局：岩澤係長】**

- ・資料No.3～5に基づき説明（説明省略）

**【松井会長】**

- ・今ほど事務局から説明があったが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。

**【信田委員】**

- ・私は、本業の飲食業以外に、高校の非常勤講師をしている。例えば農業高校で家庭科のコースと農業のコースで授業をさせていただいている。食育の説明、授業などはかなり慣れているので、いつでも協力させていただく。
- ・郷土料理に関しても通じるものがあり、私が出版させていただいたレシピ本は、4,200部ぐらい売れているが、この本を使った講演も行っている。今日もこの後、柏崎に行っ

て講演させていただいて、明日明後日は栃木でというように、県内だけではなく、県外でも活動している。まだ皆様にお伝えしたことはなかったが、結構評価を得ており、特に日本海側では同じ食材を使うものも多く、山口県の大学や、島根県の方からも問い合わせがあるなど、去年も1年間、いろいろなところへ行かせていただいた。また、食育に関しては、経済界にもいろいろと興味を持っている方がいらっしゃるようで、関西地区の経済同友会にも講演をさせていただいた。あらゆる形でお話ができると思っているが、地域の高校生に対するお話であれば、どの学校に行っても、私なりのカリキュラムや学校の教科書を使ったものなど、説明がスムーズにできると思う。

**【松井会長】**

- ・信田委員が高等学校で授業をされているということだが、こういった実績は、このアクションプランには入れられないか。

**【栗和田課長】**

- ・学校の授業としてやられているものについては計画に掲載していないが、アクションプランの中で、高校生を対象にした食育の講座や実技等の取組を挙げており、令和4年度には信田委員からも協力いただいて山菜などを使った講座を実施した。目標値に掲げる3校以上での実施には至っていないが、信田委員からもご協力いただけるということなので達成できるように取り組んでいきたい。
- ・高校生のアンケートの中でも、これから自炊するにあたり、栄養バランスなどが気になるという意見があるので、そういった不安を払拭できるような内容も含めて、委員の皆さんからご意見いただく中で講義や調理実習を行って参りたいと思っている。

**【松井会長】**

- ・この目標値は、令和8年度まで変えられないのか。

**【栗和田課長】**

- ・資料No.3の計画の目標値は、取組を行った結果としての成果目標で、アウトカム指標として設定しており、国の食育推進計画の目標値とリンクしている部分もあるので、誤りがあった場合などを除き、基本的には変えない。高い目標となっているものもあるが、変えずに取り組んでいきたい。
- ・資料No.4のアクションプランについては、取組自体も毎年度皆さんのご意見をお聞きしながら見直していく。

**③ 令和6年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）について**

**【松井会長】**

- ・次第の「(3) 令和 6 年度上越市食育推進実施計画」について事務局から説明願いたい。

**【事務局：岩澤係長】**

- ・資料No.6に基づき説明（説明省略）

**【松井会長】**

- ・今ほど事務局から説明があったが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。

**【信田委員】**

- ・このアクションプランに令和 8 年度まで取り組んだ後も、その結果を踏まえて同様の取組を継続していくということでしょうか。

**【栗和田課長】**

- ・食育推進計画は 5 か年で策定し、計画に基づく取組については毎年度このアクションプランを作成して、委員の皆様からご意見をいただく中で、事業展開していくという形をとっている。
- ・第 4 次計画の期間中はそのような形で進めていきたいと思っているが、例えば、次期計画では、アクションプランの進捗管理ではなく、別の事業推進の方法があれば変更することも検討していくことになると思う。

**【信田委員】**

- ・私のように飲食店をやっている人や、農業をされている人など、いろいろな人がこのアクションプランに参加させていただいたときに、例えば収益を得られるとか、毎年やることによって生きがいになっていくとか、何か、こう継続性のあるものによって変わってほしいと思う。
- ・今、地震の影響でちょっとお客さんの足が遠のいたりしており、そこを改善するにあたって、市はこういうことをやっていますよと声がけしたり、イベントなどを一緒にやりませんかとお話をしたりすると、一過性のもので終わってしまうイベントだったらやる必要がないという答えが返ってくるが、継続性があるものであればやりたいという声を最近よく聞く。
- ・皆さんそれなりに自分で仕事をされてこられた方だが、外部要因によってうまくいかないことが増えてきているので、地産地消だけではなく、食育に関わることであれば、私も含めて、食育を推進するような店をアクションプランの中に入れてみたりとか、逆に意識を高めるようなセミナーがあったりしてもよいのではないかと思います。

- ・私は私立の保育園で栄養士をやっている。こども園の子ども向けの給食だよりには、当然食育の内容を織り込むが、強制されているわけではなく、自分の意識のもとで書いている。ただこれが上越市内の全ての私立保育園やこども園に通じているかというと、それぞれの栄養士の考えによるのではないかと思う。上越市が運営しているところに関しては、改正があったり、内容を変えたり、試験的にこのようにしてみたということが書いてあったので安心した。子どもたちにとって、食育が当然になって、食に関する知識が当たり前になっていくような状況になっていけばよいと考えているので、未来的な思考、お考えがあれば教えていただきたい。

#### 【栗和田課長】

- ・資料No.6の29ページに地産地消の推進や、生産者と消費者の信頼関係の確立などについて記載しているが、この第4次計画にあたり、新しく取り組んでいる事業も含んでいる。例えば、40番の上越市産農産物等の情報発信のための首都圏等での販売促進、42番では、生産者と消費者が繋がるようなマッチングの事業など、こういったところを継続的にやっておりますので、またぜひ事業者の皆様からもご参加いただけるよう、周知していきたい。
- ・ただ、やはり継続的なイベントについては、食育セミナーは開催しているが、大きなイベントというのはない。ご意見を参考にさせていただきながら、事業者の皆様が継続的に参加できる、また、PRできるような取り組みについて、今後検討させていただきたい。

#### 【幼児保育課伊倉副課長】

- ・公立保育園については、各保育園において食育の日というものを作って、食育だよりを毎月発信しており、市のホームページにも掲載している。
- ・私立の認定こども園については各園にお任せしているというのが実態であるが、毎月1回、公立、私立園の調理員等が集まる献立会議を開催しているので、市の取組等を話しながら、私立園に対しても協力をお願いするような取組を進めていきたいと考えている。

#### 【信田委員】

- ・ナスサミットの取組を下支えさせていただいた。プロジェクトのスタートから、会長を支える形で関わったが、結局のところ、何かを発信したところで、農家の圃場が広がったわけでもなければ、そこに収益を上げられたという話もあまり聞いてない。
- ・私は、あるるん畑の中で工場を構えて、食品ロス対策や、上越市産のものを使った惣

菜を作ったり、加工品を作ったりさせていただいているのでよく分かるが、農家さんの声とすれば、作るだけ作って売ってしまえば終わり、それ以上広がることもなければ、新規参入される方もおらず、結局のところ、これをして何の意味があるのかという声しか残らなかったというのが現状だと思う。

- ・関わった方々も集約すれば、かえってイベントに振り回されただけなんじゃないかということがあったり、彼らが始めたことだと思うが、なかなかそれを継続的にやったり、継続的に収益を得られたりというところにまで繋がらなかったというのは、誰の責任でもないが、なかなか難しいと思う。
- ・やはり圧倒的に人が足りない部分とか、生産が追いつかない状況において、消費を促すという話があれば、需要に応じて生産量を増やすということはできるはずだという話が確かあって、以前7人の若手農家を集めて4月にお話されたと思うが、それ以来なかなか繋がりが無い。彼ら若手の思考とすれば、この食育推進会議や飲食店、給食事業者と繋がれるような雰囲気があったので、現状お話ししたことだったが、そこに繋がりがあまり深くない理由があるのではないかなと思う。食育推進会議と若干離れるかもしれないが、彼らの目的としている給食や食育に関わって自分たちの圃場を広げられるような、何かプロジェクトなり、具体的な案がなければいけないと思う。その件に関して何かお考えがあれば、ぜひ教えていただきたい。

#### 【栗和田課長】

- ・学校給食における地場産野菜の使用量の拡大に向けて、昨年の4月に若手の園芸農家の皆様やJA、上越青果、市の関係職員が一緒になってお話をさせていただいて、現状の確認と、生産される農家の皆様の安定生産、所得の確保というのが大事だということも確認させていただいた。
- ・その中で、使う側とすれば、学校給食でどうしても必要なじゃがいもやたまねぎ、にんじんなどが安定的に必要であるとお聞きした。ただ、その生産量がまだ足りていないというような実態もあり、市としては、まずそういった必要な野菜について、生産拡大を図っていきたいという方針もお伝えした。
- ・野菜はどうしても天候などに左右され、必要なときに、納期に収めることが大変だというご意見もあった。市でも、生産拡大への補助金を少し出しているほか、令和6年度からは、夏休み期間中に収穫された野菜を雪室で保管しておくための保管料への支援も新たに設けさせていただいた。おっしゃる通りなかなか課題も多く、4月にそういった会

議を設けた後、なかなか進んでないというのは事実であり、そこはしっかりと課題を洗い出して、また関係者で共有しながら取り組みを進めたいと考えている。

- ・今回のアクションプランにも、学校給食の野菜の使用率向上に繋がるような取組を記載できればよかったが、抽象的な表現になってしまっているのもう少ししっかりと課題を整理した上で、新しいアクションプランに掲げる取組を検討していきたい。ご意見はしっかりと受けとめさせていただいて、取り組んで参りたい。

#### ④ 令和6年度食育実践セミナーの実施について

##### 【松井会長】

- ・次第の「(4) 令和6年度食育実践セミナーの実施」について事務局から説明願いたい。

##### 【事務局：岩澤係長】

- ・令和6年度については、食育実践セミナーという名称で実施するかということは未定であるが、まず6月の食育月間において食育イベントを実施しようと考えている。
- ・具体的には、6月22日の土曜日に、無印良品直江津 OPEN MUJI を会場に、朝食をテーマに開催しようと考えている。今回の食育市民アンケートによって、朝食を欠食される方が少し増えたということもあったので、テーマを絞った中で調理体験のほか、朝食や食育に関するパネル展示などを行いたいと考えている。
- ・現在、庁内の関係課や食育の関係機関に出展希望を確認しているところであり、内容を取りまとめ、全体的なイベントとして整理していきたいと思っている。
- ・この食育イベントとは別に、秋にも、イベントを実施できないか検討しているが、まずは6月のイベントに向けて調整中である。

##### 【松井会長】

- ・今ほど事務局から説明があったが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。

##### 【空部長】

- ・この食育実践セミナーも1つの食育の推進手法であり、それを効果的にやりたいということで、テーマを朝食に絞ってやってみようかと考えているところであるが、朝食をとる人の割合が低下した理由が、食材の価格が上がってしまったからとなると、食育の必要性だけで解決するのはなかなか難しいと思う。
- ・食品の価格が上がっている理由、例えば、生産者が努力して、手間暇かけていることや、肥料が少し高くなっていることなど、そういった背景も含めて、今回のアンケート結果

や課題を丁寧に情報発信することで、関心を持ってもらうというようなことをしていくのが大事なのではないかと思う。

- ・先ほど会長からも別の支援が必要なのではないかというようなお話もありましたので、そういった支援を行っている人たちの活動に繋がるような情報発信を、このセミナーで行っていくということが大事なのではないかと思う。
- ・今回のアンケート結果について、本当に物価が高くなったから欠食が増えたのか、その原因についても個別に当たったわけではなく、具体的に書きづらいところもあるかもしれないが、そういう様子を少し情報収集できたらと思うので、保育園や学校で子どもたちの声から食事へのアクセスが少し厳しくなっているような話をお聞きしていれば、情報提供をしていただけるとありがたい。

#### 【中嶋委員】

- ・少し学校のことをお話しさせていただく。
- ・アンケートの食品ロスのところ、残さず食べるという回答が50パーセント以上あり、その結果を見たときに、保育園から小学校、中学校において、食事を残さないよう指導されてきたことで、大人になってからも、「もったいないよ」というような、「命をいただいていたんだね」と思えるような、そういう教育の効果が出てきたのではないかと嬉しい。
- ・一方で、朝食抜きの方が増えてきているという結果があったが、学校でもそのところはとても注視している。
- ・学校教育課からも、そのようなデータや情報提供をいただいております、市内のある中学校区では、来年度、朝食のことにも取り組むことにしている。
- ・学校で子どもたちを迎えるとき、「おはようございます」という元気な声が聞こえるときと、聞こえないときがある。「パンを1口だけ食べて出てきたよ」というような子どもの実態が、朝食抜きにあるのではないかと考えている。
- ・ただその朝食抜きの背景を食育の観点だけでは、話せない部分がたくさんある。物価高もあるが、それだけではなく、1つ1つの家庭の背景もある。個人情報にも関わることで、学校でも多様な家庭環境に対応していく必要がある。そうなったときに、一般的な朝食抜きの話だけではなく、個別に、寄り添っていくような対応がこれから求められてくるのではないかと思う。
- ・学校だけではなく、行政機関、それから保健関係、いろんなところと結びついて、その

家庭を支援していく、そういうところが求められてくるところもあると思っている。

- ・そして、高校生の実態は、小学生の実態から継続しているのではないかと考えた。その高校生が将来大人になるので、大人の朝食抜きにも繋がっていくのではないかと。そのように考えると、学校だけで朝食のことを話していくわけにはいかない時代なのではないか。
- ・親世代に、朝食抜きが与える影響というものをもっと浸透させることができないかと、お話を伺いながら考えていた。
- ・そういう意味では、6月に催されるイベントというのは、親子で朝食のことを考える1つのよい機会になるのではないかと。物価高だから、朝食抜きでよいわけではない。物価高でも朝食はつくれるし、こういうことができるというような、何か1つ具体的な提案ができるとういと思った。
- ・学校でも、保護者とともに話題にしていくが、ぱっと解決できない問題と思うので、今後とも息長く、続けて取り組んでいただければと思う。

#### 【空部長】

- ・お話を聞いていて、やはり、まずは問題意識や課題を共有して、どうしたらよいかを考えていくことが大事であるとする。また、朝食をとらないことの影響なども、改めてセミナーの中で共有することも大事であるなど、大変参考になった。

#### 【中嶋委員】

- ・アンケート結果について、住んでいる地域によって、食の意識は少し違うのではないかと。次回アンケートを取るときに、そういうことも考えていただけるとありがたい。

#### 【栗和田課長】

- ・今回の対象者は無作為抽出しているので地域性を見ることはできないが、住環境、地域環境によっても、食に対する考えも違うというところもあると思うので、次回のアンケートの際に検討させていただきたいと思う。

#### 【小林委員】

- ・アンケートの結果を見させていただいて、朝食の欠食に関して、若い世代の欠食が多いというところで、看護大学でも毎年調査していて欠食が一定数はあるが、やはり学生の様子を見ていると、一人暮らしになって食事を作るのが不慣れで、同じ食材の使いまわしやアレンジといったところに慣れるまで時間がかかっているようだ。4年生ぐらいになると、もう立派にお弁当を作って学校に来たりする。そういった調理の具体的なやり

方がわかってくると、朝食も自分で準備しやすいのかなと思うので、食育のイベントでは同じ食材をどうアレンジしたらよいかとか、一人暮らし向けの朝食の準備などについて教えていただけるとよいと思った。

- ・ただし、学生がその日にそこへ行けるかというところではない。後日でもよいので、その時の動画などをSNSなどで配信していただけると、学生も見やすくなり、私も紹介させていただきたいと思った。

#### 【松井委員】

- ・私は民生委員をしていて、健康教室もしている。高齢者のフレイル、虚弱のことだが、筋力がなくなって介護度が上がっていくという現場にいる。自分が担当する方の中には本当に野菜だけ、もしくは卵だけで暮らしている方もたくさんいらっしゃる。高齢者については、買い物弱者という視点もあるが、フレイルという言葉を使って、目標値も肉や魚、大豆製品の摂取というところを入れていただければと思っている。

#### 【栗和田課長】

- ・今回のアンケート結果を踏まえて、足りない部分を補うようなイベントができればよいと思っている。
- ・もう1つのテーマとして朝食の欠食の改善というところも、若い層だけではなく、親子で一緒にやるような内容や、高齢者向けの内容など、幅広い年代に向けて食の大切さみたいなものも周知できればと思っている。
- ・また、おっしゃる通り若い方からイベントに参加してもらうのは難しい部分もあると思うので、動画を撮影して周知するなど検討し、市民はもとより、広く多くの方に、上越市の食を発信できればと思っている。いただいたご意見を参考に、イベントの計画をさせていただくので、ぜひ委員の皆さんからもお越しいただきたいと思う。

### ⑤ その他

#### 【松井会長】

- ・次第の「(5) その他」について、まず、事務局から情報提供等があればお願いします。

#### 【事務局：伊藤副課長】

- ・本日は、令和6年7月25日までの任期中、最後の推進会議となる。皆様のこの2年間の活動を通して、食育推進に関する市の取組や推進会議のあり方などについてご意見をいただければと思う。

### 【鳥越委員】

- ・物価高という話があったが、J Aの立場からすると、野菜を出す農家の方たちにとっても肥料、農薬の価格がとても上がっていて、2倍になったなどという話もある中で、野菜も本当は価格を上げざるをえない状況である。北陸農政局からも適正価格に上げるよという話があるが、農家の方にとっては価格を上げてしまうとお客さんが買ってくれなくなってしまうということで、なかなか上げたがらない。そういう方も多いのが現状である。
- ・私達も農家の方を応援する立場として、買って応援、食べて応援しているが、こうやって、朝食に限らず欠食する人が多いということで、ちょっとまたそこも絡んでくるとなるとなかなか複雑な思いではある。
- ・また、お米は、一番コストパフォーマンスのよい食材ではないかと思っているので、ぜひお弁当の半分はお米にしていだきたいと思っている。

### 【土井委員】

- ・このようなアンケートで、市内の状況を知ることができてとてもありがたかった。
- ・学校では、食育月間や食育の日に合わせて、お便りや給食の献立、給食指導でお知らせしているが、アンケートで、今日8割の方が食育を知らないという答えがあり、今後も続けて活動していきたいと思っている。
- ・栄養士会は学校だけでなく、行政や病院、福祉地域など様々な分野に仲間がいるので、今回のアンケート結果やアクションプランを共有しながら活動していきたい。
- ・昨年10月の屋台会館のイベントに参加させていただいたが、自分の子どももクイズなど楽しんでやっていたので、またクイズラリーなど、子どもが楽しめるような活動を取り入れていただければと思う。
- ・アクションプランの中で、レシピ動画の紹介等があったが、私もこの委員をしている中で知ったところであり、そのようなことを学校だよりや様々な場面で紹介してもらえると、自分たちの仲間にも共有しあえて、いろいろな郷土料理の話が広がったりするのではないかと思った。自分も宣伝していきたいと思うので、紹介方法も工夫していただければと思う。

### 【秦野委員】

- ・私の所属するJ Aえちご上越の農業対策課では、食育の活動として幼稚園でのシャカシャカおにぎりづくりを行っている。当J Aの上部団体であるJ A新潟中央会が音頭を取

っており、昨年は上越市内 15 園にお邪魔して、シャカシャカおにぎりづくりや、ご飯ができるまでというお話をさせていただき、920 名の園児達と触れ合うことができた。

- ・また、田んぼのことが中心になるが、国消国産、地産地消ということで、上越市の 29 の小学校、団体の方へ、出前講座プログラムの対応をさせていただいた。
- ・こちらの 2 つとも、令和 6 年度も継続した取組として計画しているので、もしよろしかったら今日教育関係の方もいらっしゃるのでお声がけいただければと思う。

#### 【倉又委員】

- ・保育園の立場として言わせていただくと、保育園は毎日、いろんなことが食育にも繋がっていると思う。きよさと保育園のことを言うと、近くの畑で野菜を作っており、それをみんなで料理してみたりしている。
- ・保護者向けの給食の試食会もだんだんできるようになってきたので、親御さんの啓発にもつなげていきたいと思う。
- ・この推進会議では、いろんな分野の方が集まってお話されることはよいことだと思う。

#### (5) 閉会

##### 【事務局：伊藤副課長】

- ・以上で、令和 5 年度第 2 回上越市食育推進会議を終了する。

#### 8 問合せ先

農林水産部農政課 TEL : 025-520-5747

E-mail:nousei@city.joetsu.lg.jp

#### 9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。